

青少年団体連絡協議会

日 時	平成 22 年 2 月 4 日 (木) 19 : 30 ~ 20 : 30
場 所	アステシアかさい 地域交流センター会議室
参加者数	6 人



大人が地域への愛情が希薄だと、

子どもにもその親しみや愛情が伝わらない

- ・ 子どもの数が減って青少年連絡協議会に登録する団体が少なくなった
- ・ 今は、ジュニアリーダー、ボーイスカウト、加西市空手道協会の3団体
- ・ 加西市のボーイスカウトは結成 50 年にもなる
- ・ 入会は口コミで勧誘していた。今はチラシを配布するが応募は少ない。少人数になって活動を目にする機会が減ったことも新規参加が少ない原因
- ・ 数年前まで 20 人いたボーイスカウトは現在 4 人だけ
- ・ 子どもは外での遊び方を知らない。知ったら好きになることもあるのに・・・
- ・ 昔は上級生や同級生から遊びを教えてもらった。
- ・ ガキ大将がいない。一緒にいても別々の遊びをしている。
- ・ 頭をつきあわせて遊ぶと会話もするしケンカもする。それもコミュニケーション。
- ・ 地元の山はかっこうの遊び場だった。
- ・ 市外に出ていけない子どもを育てることが大切 (小中学校)。
- ・ 小中学校の間に地元を知る機会はいっぱいある。
- ・ いろんな授業で地元を学ぶのにそれぞれのことがリンクしていない。ぶつ切り。
- ・ 自分のまちを好きになる = 家族と一緒にいたいと思うこと
- ・ 小学校高学年になったら、地元のことを十分知る機会もなく、市外・県外・海外に目を向けることになる。
- ・ 子どもに地域のことを教えるのは学校であったり、親であったり、家族である。
- ・ 親や家庭に地域への愛情が希薄だと、子どもにも地域への親しみや愛情が伝わらない。

そこに暮らす人にしかわからないかもしれないけれど、 身近な自然が加西の魅力

- ・ 加西に住むと通勤圏内がせいぜい神戸まで。大阪までは少し厳しい
 - ・ 高砂・加古川、加東だと大阪まで通える
 - ・ 加西からだとなかなか難しい。陸の孤島と言われるところ
 - ・ 若者が働ける場所があればよい
 - ・ 自分の希望する職種が、市内やその近くにない
 - ・ 京阪神までいくことになる
 - ・ 加西から通えないところではないが、市外に住む人も多い
 - ・ それでも同級生の半分くらいは加西に残っている。
 - ・ 自営業もあるが、農家で長男というパターンが多い
 - ・ 実際、長男だから加西に帰ってきた
 - ・ 住むところ（家）があったから帰ってきた
 - ・ 親と同居ではない。同居ではお互いが気を使ってしまう
 - ・ 少し離れたところで家があるのが理想
 - ・ 家から通えるところに職場があるので、実家近くに住んでいる
 - ・ 青少年活動をしていたから、地元に住もうと考えていた
-
- ・ 加西の魅力って何？
 - ・ 自然。生まれ育ったところだから
 - ・ 特筆するほどの自然はない。例えばきれいな小川など
 - ・ フラワーセンターは近くて遠い。あまり縁がない
 - ・ 身近な自然。身近な里山、風景
 - ・ 市外から来る人を引き込めるほどにアピールできるものではない
 - ・ 実際に住んでもらえれば、じわじわわかるもの
 - ・ 加西に住んでみてはじめてわかる良さ。それが魅力
 - ・ でも、加西市にはこれといった魅力や特色がないと思う人が多い
 - ・ 農業が見直されているのだから、田んぼを使って観光とかできないか
 - ・ 若い人には良さがわかりにくいかもしれない
 - ・ 若い人には自分のまちに興味を持たせることが大切
 - ・ 学校で、また地域の人から学ぶ。そんな機会を創り出していくこと
 - ・ 少子化対策にも、市の魅力づくりにも、教育はとても大切